

- 問1 室町時代に確立された「書院造」の特徴を説明した文として、その構造的背景を含めて最も適切なものはどれですか。 (2025年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 高床式の倉庫のように木材を組み上げ、通気性と防湿性を最優先に考慮した建築様式 | 2. 石垣の上に巨大な木造建築を建て、防衛と権威の象徴として装飾を施した城郭様式 | 3. 畳を一面に敷き詰め、床の間や違い棚などを設けることで、接客や生活の機能を高めた住宅様式 | 4. 池を囲むように配置された貴族の寝殿を中心とし、開放的な空間を重視した建築様式 |
|---|--|--|---|
- 問2 室町幕府の第8代将軍であり、1467年に始まった応仁の乱の時期に将軍職にありました。京都の東山に、禅宗の影響を受けた簡素な美意識を象徴する銀閣（慈照寺観音殿）を建立した人物は誰ですか。 (2016年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 足利尊氏 | 2. 足利義政 | 3. 足利義教 | 4. 足利義満 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問3 室町時代に広まった書院造が、それ以前の平安時代に主流だった寝殿造と大きく異なる点はどこにありますか。住宅の構造や設えの変化について正しく述べたものを選びなさい。 (2016年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 建物の周囲に池を作り、橋でつながり複数の建物を回廊で結ぶ広大な造りへと変化した。 | 2. 板敷きの床に円座を置いて座る形式から、床一面に畳を敷き詰める形式へと変化した。 | 3. 部屋の仕切りをなくして開放的な空間を作り、カーテンのような布で空間を区切るようになった。 | 4. 屋根に瓦を葺き、外壁を石造りやレンガ造りにすることで防火性を高める工夫がなされた。 |
|---|--|---|--|
- 問4 室町時代の政治と文化についてまとめた資料において、京都の北山に建てられた寺院の建築様式が「一層は寝殿造、二・三層は禅宗様（仏殿造）を組み合わせ、全体に金箔を貼った豪華なつくり」であると説明されています。この建築物と、それに関連する人物の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2017年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 1. 銀閣 — 足利義政 | 2. 金閣 — 足利義満 | 3. 金閣 — 足利義教 | 4. 銀閣 — 足利義満 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
- 問5 1467年に将軍の後継ぎ争いなどをきっかけとして京都で始まり、約11年間続いた内乱について述べた文として、適切なものはどれか。 (2018年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. この内乱を境に、下の者が実力で上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと移り変わった。 | 2. この内乱の最中に、松平定信による寛政の改革が行われ、農村の復興や幕府財政の再建が図られた。 | 3. この内乱によって鎌倉幕府が滅亡し、後醍醐天皇による建武の新政と呼ばれる天皇中心の政治が始まった。 | 4. この内乱の結果、足利義満が明との間で日明貿易を正式に開始し、銅銭などが大量に輸入された。 |
|--|--|---|---|
- 問6 鎌倉時代から室町時代にかけて、交通の要所に集まり、馬の背に荷物を載せて物資の運送を専門に行った業者を何と呼びますか。当時の生活の様子を描いた絵巻物などでは、大きな荷を積んだ馬を引いて歩く人々の姿として表現されています。 (2026年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|---------|
| 1. 飛脚 | 2. 問丸 | 3. 馬借 | 4. 座の商人 |
|-------|-------|-------|---------|
- 問7 15世紀、足利義政によって建てられた慈照寺東求堂同仁斎（じしやうじとうぐどうどうじんさい）の内部に見られる、畳を敷き詰め、明かり取りの障子や床の間、棚などを設けた建築様式を何と呼びますか。 (2020年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 書院造 | 2. 合掌造 | 3. 校倉造 | 4. 寝殿造 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問8 室町時代の交通網において、琵琶湖沿岸の坂本や大津が物流の要所として発展した理由について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 石川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 室町幕府が日本海側の年貢を直接管理するために、巨大な倉庫群である蔵屋敷を設置したから | 2. 瀬戸内海から運ばれてきた西国の特産品を、北陸地方へ送るための唯一の輸出港だったから | 3. 海外貿易の拠点として、明（中国）から届いた貨幣や商品を西日本の各地へ卸す場所だったから | 4. 日本海側から届いた物資を、水運から陸運へ切り替えて京都へ運ぶための中継地点だったから |
|---|--|--|---|
- 問9 1467年に京都で始まり、約11年間にわたって続いた戦乱について、その発生の直接的な背景と、社会に与えた影響の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 将軍のあとつぎ問題や守護大名の対立が背景となり、実力のある者が上の身分の者に打ち勝つ下剋上の風潮が広がった。 | 2. 農村での一揆が全国に広がったことが背景となり、幕府が守護大名の力を借りて農民を支配する体制が強化された。 | 3. 海外との貿易利権をめぐる対立が背景となり、将軍の権威が高まって守護大名の力が弱まった。 | 4. 徳川家康と石田三成の対立が背景となり、戦乱の後には幕府による大名への統制が厳しくなった。 |
|---|---|--|---|
- 問10 室町時代に足利義満が始めた明との貿易において、わざわざ「勘合」と呼ばれる札を半分に分けて照らし合わせる方法が採用された目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|--|-------------------------------------|
| 1. 朝鮮半島を経由せずに、直接中国の港へ入港する許可を個別に得たため | 2. 明の皇帝から授かった日本国王の称号が、世襲であることを確認するため | 3. 倭寇と呼ばれる海賊による密貿易を防ぎ、正式な貿易船であることを証明するため | 4. 幕府が独占していた金や銀の輸出量を、明の役人と正確に照合するため |
|-------------------------------------|--------------------------------------|--|-------------------------------------|
- 問11 中世における近畿地方の物流について、日本海沿岸から京都へ物資が運ばれる経路と、その仕組みを説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 日本海から直接、大型船を京都の市街地まで乗り入れさせる運河が整備された。 | 2. すべての物資は琵琶湖を通らず、北陸から京都まで一貫して牛車を用いた陸路で運ばれた。 | 3. 物流の混乱を防ぐため、物資の移動は禁じられ、京都周辺の生産物のみが流通した。 | 4. 琵琶湖での船による水上輸送と、大津から京都までの馬借による陸上輸送が組み合わされていた。 |
|---|--|---|---|
- 問12 後醍醐天皇が行った「建武の新政」は、武士たちの強い不満を買い、短期間で失敗に終わりました。その背景にある、新政の政治的な特徴として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---------------------------------------|
| 1. 全国の武士に過度な軍役を課し、モンゴル軍の再来に備えた防備を強化した。 | 2. 恩賞の配分において貴族を重用し、武士の土地所有権を保障する審理を軽視した。 | 3. 有力な守護大名の権限を強め、地方武士が天皇に直接意見を言う機会を奪った。 | 4. キリスト教の布教を認め、仏教を重んじてきた武士や寺社勢力と対立した。 |
|--|--|---|---------------------------------------|
- 問13 室町時代の足利義政の時期に栄えた東山文化では、禅宗の影響を強く受けた文化が発展しました。京都の龍安寺に見られるような、水を使わずに石や砂、木などを巧みに配置することで自然の景観を表現した庭園様式を何と呼びますか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 枯山水の庭園 | 2. 浄土式の庭園 | 3. 書院造の庭園 | 4. 寝殿造の庭園 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 畳を一面に敷き詰め、床の間や違い棚などを設けることで、接客や生活の機能を高めた住宅様式	書院造は、室町時代の東山文化の中で発展した武家の住宅様式です。平安時代の貴族の邸宅である寝殿造と異なり、板敷きの床から畳の敷き詰めへと変化し、部屋をふすまで仕切ることで独立した空間を作りました。さらに、掛け軸を飾る床の間や、物を置くための棚、読書のための付書院などが整えられ、これが現代の日本の和室のルーツとなっています。
問2	答え 2 足利義政	室町幕府の第8代将軍である足利義政は、応仁の乱という動乱期にありながら、東山文化と呼ばれる独自の文化を築きました。第3代将軍の足利義満が建立した金閣（北山文化）が豪華絢爛であるのに対し、義政が建立した銀閣は、わび・さびを感じさせる質素で落ち着いた趣が特徴です。
問3	答え 2 板敷きの床に円座を置いて座る形式から、床一面に畳を敷き詰める形式へと変化した。	平安時代の寝殿造は板張りの床が基本で、座る場所にだけ畳（円座など）を置いていました。しかし、書院造では部屋全体に畳を敷き詰めるようになり、さらに障子や襖によって部屋を明確に仕切る機能的な構造へと進化しました。これにより、接客や読書といった目的に応じた個別の空間作りが可能になりました。
問4	答え 2 金閣 — 足利義満	京都の北山に金閣を建立したのは第3代将軍の足利義満です。金閣は公家の文化と武家の文化が融合した北山文化の象徴です。一方、第8代将軍の足利義政は京都の東山に銀閣を建立し、こちらは簡素で深い味わいのある東山文化を代表する建築物となりました。人物と場所、文化の名称を正しく区別することが重要です。
問5	答え 1 この内乱を境に、下の者が実力で上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと移り変わった。	応仁の乱は、室町幕府の権威を大きく失墜させる結果となりました。幕府や守護大名の統制力が弱まったことで、各地で実力のある者が主君を倒して勢力を広げる「下剋上」の動きが加速し、日本は100年以上続く戦国時代へと突入しました。寛政の改革は江戸時代、日明貿易は足利義満の時代、建武の新政は鎌倉幕府滅亡後の出来事であり、応仁の乱とは時期や背景が異なります。
問6	答え 3 馬借	中世の日本において、馬を利用して物資を運搬することを職業とした人々を馬借と呼びます。彼らは港（津）や関所、宿場といった交通の要点に拠点を置き、陸上交通における流通の主役として活動しました。なお、問丸は港湾での物資保管や中継を行う業者であり、飛脚は主に江戸時代に発達した通信制度を指します。
問7	答え 1 書院造	室町時代の東山文化において、武士の生活様式と禅宗寺院の様式が融合して生まれた建築様式です。足利義政が隠居所として建てた銀閣（慈照寺）の東求堂同仁齋はその代表例であり、現代の和室の原型となりました。平安時代の貴族の住宅様式である寝殿造と対比して理解することが重要です。
問8	答え 4 日本海側から届いた物資を、水運から陸運へ切り替えて京都へ運ぶための中継地点だったから	室町時代の日本海側（北陸など）からの物資は、一度陸路で琵琶湖北岸へ運ばれ、そこから船で湖を縦断して大津や坂本に到着しました。大津・坂本は京都に極めて近く、ここで船から降ろされた荷物が馬借の手によって京都へ運ばれたため、水運と陸運をつなぐ「中継地」として重要な役割を果たしました。蔵屋敷は主に江戸時代の制度であり、また琵琶湖は瀬戸内海のルートとは直接関係ありません。
問9	答え 1 将軍のあとつぎ問題や守護大名の対立が背景となり、実力のある者が上の身分の者に打ち勝つ下剋上の風潮が広がった。	室町時代の中期、8代将軍足利義政の後継者をめぐる争いに、細川勝元と山名宗全という二大守護大名の勢力争いが結びついたことで応仁の乱が勃発しました。この戦乱により幕府の権威は失墜し、中央の統制が及ばなくなったことで、身分が下の者が実力で上の者を倒して領地を広げる「下剋上」の風潮が全国的に広まりました。これが、のちの戦国時代へとつながる大きな転換点となりました。
問10	答え 3 倭寇と呼ばれる海賊による密貿易を防ぎ、正式な貿易船であることを証明するため	当時、東アジアの沿岸部では倭寇（前期倭寇）と呼ばれる海賊が活動し、略奪や密貿易を行っていました。明は倭寇の取り締まりを強く求めているため、幕府は「勘合」という割印のある札を持参させ、それを持たない海賊船と正式な遣明船を厳格に区別する仕組みを整えました。
問11	答え 4 琵琶湖での船による水上輸送と、大津から京都までの馬借による陸上輸送が組み合わされていた。	北陸などの日本海側から届いた物資は、敦賀などの港から陸路で琵琶湖の北岸へと運ばれました。そこから琵琶湖を縦断する船での水上輸送が行われ、大津などの港で荷揚げされた後、馬借たちの手によって陸路で消費地である京都へと届けられました。このように、自然の地形を活かした水陸の連携が中世の物流を支えていました。
問12	答え 2 恩賞の配分において貴族を重用し、武士の土地所有権を保証する審理を軽視した。	後醍醐天皇は、それまでの幕府が行ってきた武士の慣習を無視し、貴族を優遇する政治を行いました。特に、武士にとって最も重要な「土地の所有権（所領）」に関する裁判や恩賞の決定が、天皇の恣意的な判断や貴族中心の基準で行われたため、倒幕に協力した武士たちの間に急速に不満が広がりました。
問13	答え 1 枯山水の庭園	室町時代の東山文化において、禅宗の精神性を反映して誕生した様式です。水という具体的な素材を使わずに、白砂の紋様で水の流れを、石の配置で山や島を象徴的に表現する点に特徴があります。龍安寺の石庭はその代表例として有名です。